

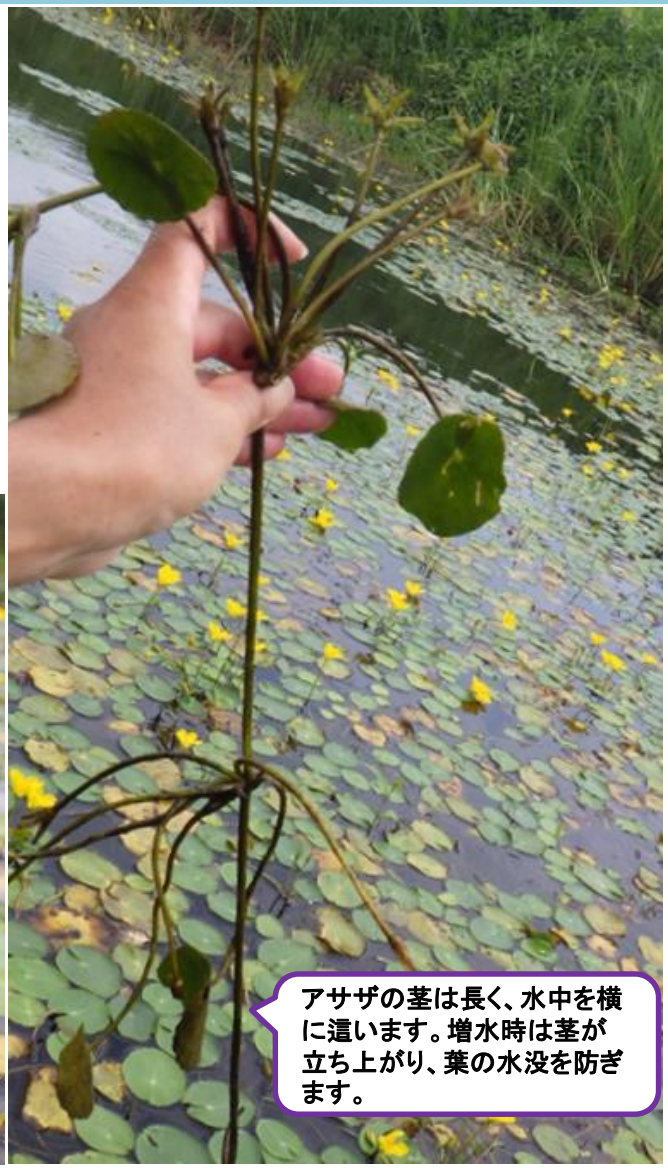


7月中旬の洪水によって、多くのハスが枯れました。8月初旬ごろから、伊豆沼東部を中心に生き残ったハスが花を咲かせ始めましたが、かつてのハス群落を取り戻すには、数年はかかりそうです。

Vol.147
令和4年9月号

洪水に対する水草の対応

伊豆沼・内沼は沖積平野に位置し、洪水の起きやすい場所です。今年の7月中旬から8月上旬にかけて、伊豆沼・内沼では洪水によって水位が上昇しました。その際、水草の種類により洪水への適応度の違いが観察されました。洪水に強い水草は、水中を漂う長い茎をもっており、この茎が増水時に立ち上がることで、葉が水没することを防いでいるようです。しかし、洪水に強いといわれているヒメガマは、浅い水域の多い伊豆沼・内沼での生育地は限定的となっています。これは、頻繁に起こる洪水と水位上昇に対応できないためかもしれません。一方で洪水に弱い種は、長い茎を持たないか、持っても地中に根付いています。そのため、増水時には全体が水没し、窒息して枯れてしまいます。



一面に咲いたアサザの花。増水の影響は感じられません。

アサザの茎は長く、水中を横に這います。増水時は茎が立ち上がり、葉の水没を防ぎます。

外来魚放流禁止看板を設置しました

東北地方環境事務所により、外来魚放流防止PRの一環として、沼の数か所に看板を設置しました。また、違法放流監視のためのカメラも設置しています。ブラックバス等の持ち出しは違法行為で、宮城県ではキャッチ&リリースも禁止されています。

今回の看板設置は、長年に亘るブラックバス等の駆除によって回復してきた伊豆沼の生態系を将来世代に残していくための活動の1つとして行われました。皆さま方のご協力をよろしくお願いいたします。

環境省職員とインタビューに応じました。



伊豆沼・内沼の周辺に設置しています。

学童施設で出前講座を実施しました

7月27日に中田児童館、8月4日に石森小学校で各児童クラブに通う子供たちに、財団職員が出前講座を行いました。講座内容は、伊豆沼の魚についてです。初めに伊豆沼の魚で魚すくい、その後に班ごとに分かれて魚の観察と魚やエビのスケッチを行いました。子供たちは、魚の種類を見分けながら、子供同士で見せ合ったり、スケッチでは魚の鱗や目、エビのお腹などそれぞれの特徴を掴んだ絵を描いてくれました。短い時間でしたが、夏休みの良い思い出の1つになってくれれば嬉しいです。



珍しい生き物はいたかな？



種類はなにかな？

伊豆沼・内沼生き物図鑑 ～ 水草の世界 ～

夏の水辺には、様々な水草が生育しています。水草は、抽水植物（茎葉が水面上に出る）、浮葉植物（葉が水面に浮く）、沈水植物（全体が水中に存在）、浮遊植物（湖底に根付かず水面や水中を漂う）に分類されます。なお、ミズアオイのように水位の変化に合わせて沈水植物から抽水植物に変化する種類も存在します。また浮葉植物のガガブタは、葉裏に殖芽というウニのような芽をつけます。このように、水草には興味深い生態を持つものが多く存在しますが、水上から見るだけでは分かりにくいので、観察する場合は、水中ケースの使用をお勧めします。水草の生育する湿地は、人間の生活活動の影響を受けやすい場所のため、絶滅が心配される種が多く存在します。水草を保全する第一歩は、興味を持つことです。普段かかわることが少ない水草ですが、田んぼなど身近な場所に生えている種類もありますので、安全に注意しながら観察に出かけてみてはいかがでしょうか。

ミズアオイは沈水植物から抽水植物に変化します



ガガブタの花

ガガブタの殖芽

